学校研究について

１．学校研究全体計画

（１）研究主題

語り合い，学びが深まる授業づくり

～　他者と協働した探究的な学びをめざして　～

（２）主題設定の理由

昨年度から「小松市学力向上推進事業（探究的な学習)」の指定を受け，算数科の研究に加えて，生活科や総合的な学習の時間も取り上げて，「探究的な学習」の充実についての研究を進めてきた。

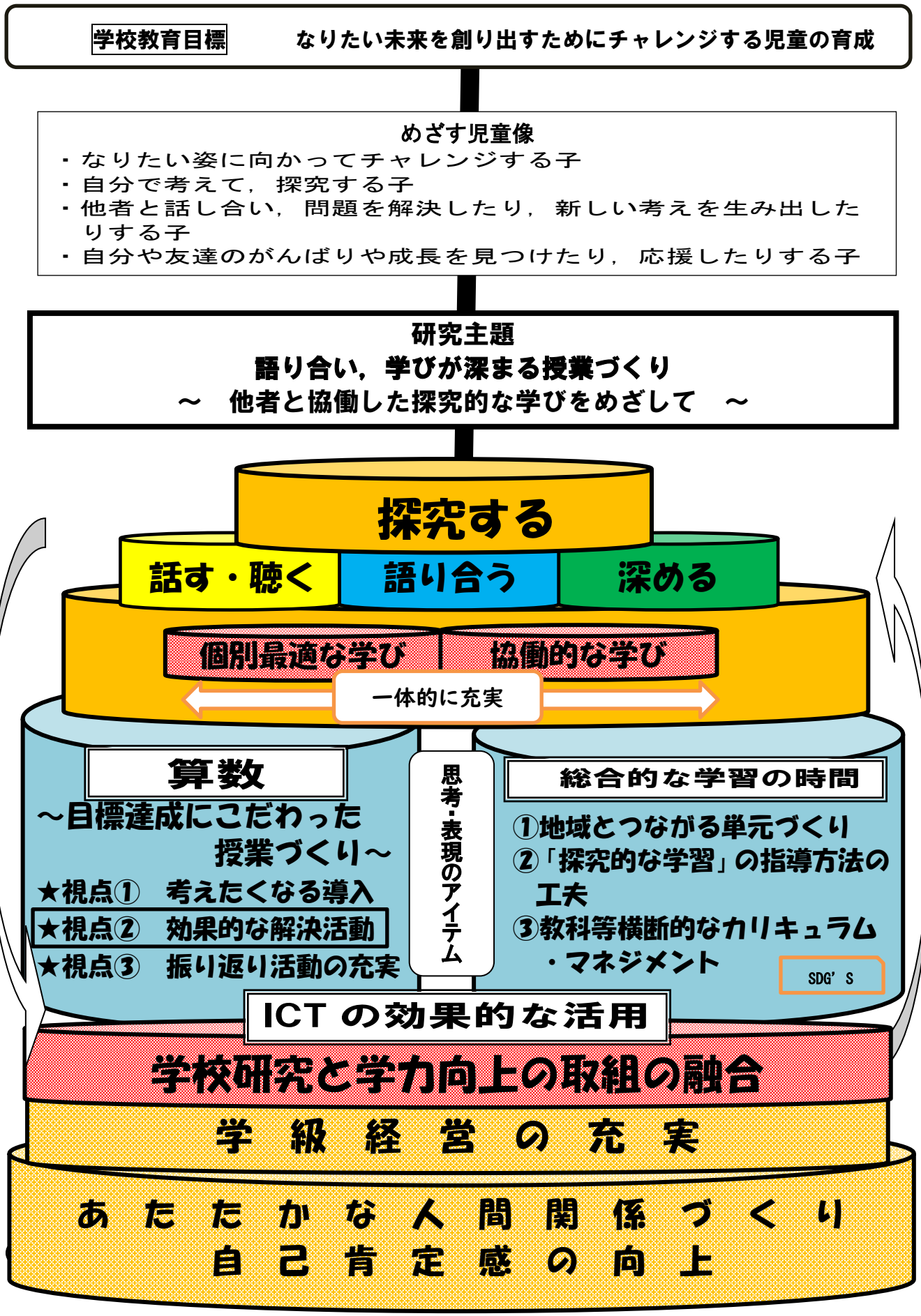
その結果，3つの成果を得ることができた。1つ目は，児童の探究課題を支えることができるような「ひと・もの・こと」に関わる地域人材を発掘できたことである。そして，教師自身が児童の興味関心・教師の願い・教材の特性の３つの視点から児童の姿を思い描きながら，単元を構想し，単元計画を立てたり，指導案を考えたりすることができた。2つ目は，探究的な学習のプロセスにおいて，考えるための思考ツールやICTを効果的に活用しようと実践することができたことである。児童が思考を深めたり可視化したりできるようにワークシートを工夫したり，目標達成に向けての思考過程を把握し，評価するために活用することができた。3つ目は，第４学年と第６学年に関しては，カリキュラムマップを十分に吟味し，各教科等の学びを「総合的な学習の時間」につなげて考えることができた。さらに，学習指導案の中で単元構想図を作成し，各教科の単元だけでなく，資質・能力まで具体的に関連を図ることができたことである。

一方，課題も明確になった。その中で特に今年度取り組んでいきたいと思うことが２つある。まず１つ目は，「協働的な学び」をできるようにすることである。「協働的な学び」における話し合いの場面では児童と児童が「つながる」ということが大切になってくる。ただ単に「友達と一緒に」というのではなく，「協働的な学び」となるよう，どのような姿が見られたら，つながったことになるのか，より具体的な姿をまずは教師と児童が共有し，よりよい「つなげて」の姿が見られるようにしていきたい。さらに，そのためには，「個別最適な学び」の場面も大切にしなければならない。「協働的な学び」と「個別最適な学び」とが往還するような学びのスタイルを確立できるようにしていく。

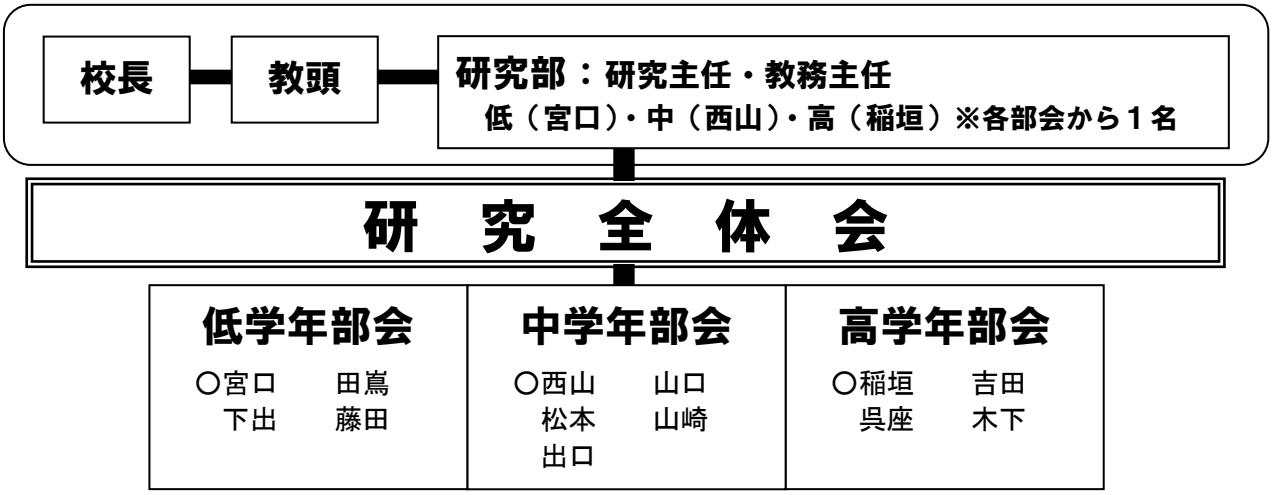
また，昨年度第３・第５学年は総合，各教科等との関連を図ったカリキュラムマップを作成してみたが，十分に活用しきれていない面がある。単元構想図を作成することで，各教科等のどの資質・能力と関連を図っているのかまでを全学年で構想できるようにしていきたい。

そこで，今年度も研究主題と副題を継続していく。算数科，総合的な学習の時間を核とし，教科等横断的なカリキュラム・マネジメントを行うことを通して，広い視野をもち，よりよく課題を解決し，自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成していけるよう日々授業改善を積み重ねていきたい。

（３）研究の全体構想図


学校教育目標
なりたい未来を創り出すためにチャレンジする児童の育成
めざす児童像
・なりたい姿に向かってチャレンジする子
・自分で考えて，探究する子
・他者と話し合い，問題を解決したり，新しい考えを生み出したりする子
・自分や友達のがんばりや成長を見つけたり，応援したりする子
研究主題
語り合い，学びが深まる授業づくり
～　他者と協働した探究的な学びをめざして　～
探究する
話す・聴く
語り合う
深める
個別最適な学び
協働的な学び
一体的に充実
算数
～目標達成にこだわった授業づくり～
★視点①　考えたくなる導入
★視点②　効果的な解決活動
★視点③　振り返り活動の充実
思考・表現のアイテム
総合的な学習の時間
①地域とつながる単元づくり
②「探究的な学習」の指導方法の工夫
③教科等横断的なカリキュラム・マネジメント
SDG’S
ICT の効果的な活用
学校研究と学力向上の取組の融合
学　級　経　営　の　充　実
あ　た　た　か　な　人　間　関　係　づ　く　り
自　己　肯　定　感　の　向　上

（４）研究組織



（５）研究の方法

研究推進委員会

〇研究推進委員が中心となり，研究実践を進める。また，研究部は計画・連絡・調整・実践の連携を図る。

研究全体会

〇「めざす授業」に向けての学習会や取組について共通理解を図る。
〇全体研究授業の指導案の検討・授業整理を行う。指導案検討会では，模擬授業形式で提案し，授業展開や特に視点②「効果的な解決活動」について協議を行う。
〇指導案検討や授業整理会では，目標達成時の児童の姿を明確にし，本時のねらいを達成するための手立てや授業展開について検討する。
〇授業整理会では，参観時に「良い点」「課題」「改善策」について付箋に記入したものをもとに，グループ協議を行う。まとめとして，各学年での実践について話し合い，キーワードでまとめ，グループで改善策まで検討する。→黄色の付箋「改善策」を活用
〇研究授業後は，授業実践報告書（別紙）を作成する。

低・中・高学年部会

〇研究推進委員会の提案を受けて，教材研究や「めざす授業」に向けての実践を行う。
〇研究授業の指導案の作成・検討を行う。
〇公開授業は，部会ごとに事前検討，参観，整理会を行う。指導案は全員に配布し，他部会の参観者にも意見や助言を受ける。
〇研究授業は，各学年全体研究授業１本（算数・総合）と公開授業１本を行う。
〇研究授業後は，授業実践報告書を作成する。

その他

〇小松市研究指定「学力向上推進事業（探究的な学習)」を推進するにあたり，小松市教育委員会からの指導・助言を受けながら，研究を推進していく。
〇校内研修会では，外部講師・指導主事・CCO を招聘し，指導や助言をあおぐ。
〇授業交流を行い，互いに授業を見合うことで，授業力の向上をめざす。
〇GIGA 研修と研究全体会及び部会との連携を図り，ICT の効果的な活用の向上をめざす。

２　研究の内容

（１）めざす授業像と児童の姿

みんなが楽しい学校　みんなが成長できる学校を　みんなでつくる

めざす児童の姿

- なりたい姿に向かってチャレンジする子
- 自分で考えて、探究する子
- 他者と話し合い、問題を解決したり、新しい考えを生み出したりする子
- 自分や友達のがんばりや成長を見つけたり、応援したりする子

〈研究の視点〉本時のねらいを達成することができていたか。

〇授業を組み立てる際に考えてほしい視点・授業を見る際に学んでほしい点

視点①　考えたくなる導入の工夫

- 児童の心を揺さぶり問いを持たせる手立て
- 問いから学習のめあてを見つけさせる手立て
- 解決の見通しをもたせる手立て

視点②　効果的な解決活動の工夫（重点）

- 個人思考で図・式・言葉を使って答えを導き出させる手立て
- 目的を明確にしたペア・グループ活動、学習用端末活用の手立て
- 全体で，考えの異同やより良い考えを追究し深める手立て

視点③　学びや変容を自覚するための振り返り活動の工夫

- 定着を確かめる適用問題の工夫（評価問題の活用）
- 思考過程を価値付けふり返らせる手立て
- 学びの喜びを実感させるような振り返りの手立て

（２）めざす授業像に向けての取組

各教科における「資質・能力」と学習の基盤となる「資質・能力」の育成

１．学んだことを人生や社会に生かそうとする力を育む教育

- 探究的な学びの推進（児童の～したいを大切にした総合的な学習の時間の充実）
- カリキュラム・マネジメントの充実
  （重点単元の設定，有機的な教科のつながりの意識化）
- 学校研究，若プロ研修を通しての授業の質的改善
- 自己調整して学ぶ力，協働して学ぶ力の育成

２．学習内容の理解，習熟，基礎基本の定着

- 確実に力をつける授業の推進
- 共通システムの構築・推進（朝タイム・帯タイム・家庭学習等の工夫）

３．ＧＩＧＡスクール構想の推進

- 一人一台学習用端末を活用した日常的で効果的な指導の推進

（３）めざす授業像や児童の姿を達成するための手立て

○授業集会によるめざす授業のイメージを児童と共有する。さらに各クラスで「どんな授業をみんなで作っていくのか」を話し合い，その具体的な姿のイメージを共有する。
○「授業チャレンジ」に全校で挑戦することで，取組の視点を絞り，共通理解・共通実践できるようにする。

①なりたい姿に向かってチャレンジする子
②自分で考えて，探究する子

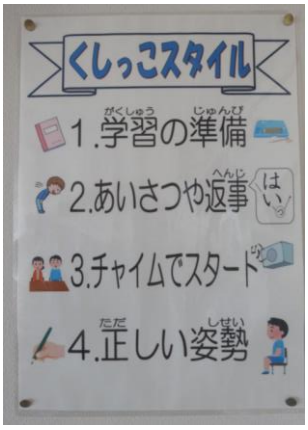
ア．児童が「探究したい」という意欲をもてるような地域とつながる題材の開発
イ．「探究的な学習」において，連続性のある「探究のプロセス」がもてるような単元計画の工夫
ウ．「探究的な学習」の指導方法の工夫

③他者と話し合い，問題を解決したり，新しい考えを生み出したりする子

ア．チェックカードを活用した毎日の振り返り
ウ．学級みんなで１時間の思考過程を振り返り，自分の学びや変容を自覚し，学びの喜びを実感させられるような終末の工夫
エ．「思考・表現のアイテム」を活用した，思考の整理・視覚化

④自分や友達のがんばりや成長を見つけたり，応援したりする子

ア．「くしっこスタイル」を全校で共有し，授業の土台を支える学習規律の定着を図る。
イ．生徒指導の３機能を生かした授業づくり・学級経営
ウ．「宝物ファイル」や「キャリアパスポート」の推進



R５年度　算数科の授業スタイル→PDCA サイクル（修正を加えてバージョンアップ）

くしっこ授業スタンダード

参考：小松教育事務所　授業改善資料⑤⑥⑦

視点①導入の工夫

つかむ

1. 題意を把握し，課題をつかむ。

問題提示

ねらいにせまる**学習課題**の設定

〈　　〉

「あれ？」「え？」
「昨日と違う」
「前の勉強が使えそう。」

・児童の心をゆさぶり問いをもたせる。
・問いや気付きから学習のめあてをみつけさせる。

視点②効果的な解決活動

考える・深める

2. 見通しを持ち，自分で考える 個人思考

※ブロック・絵・図・言葉・式
表など思考のアイテムを使って

「たぶん○○になりそう。」
「前の時間のやり方を使ってやればできそうだ。」
自分で考える時間の確保

・解決のための答えの見通し、方法の見通しをもたせる。

3. 全体で考える 集団思考

・図と式と言葉等を関連させて考える。
・途中までででも認め、学級全体で考える。

＊深い学びにつなげる発問の工夫

聴いて　つなげて

「○○さんに付け足します。」
「○○さんの続きを言います。」
「○○さんの言いたいことは・・・。」

目的を明確にした効果的な
ペア・グループ活動

終末「まとめ」で使う用語や考え方などを黒板に残しておく。

・意図的に指名する。
・全体で考えの異同やよりよい考えを追究し深める。
・発表会にならないように、「つなげる」「深める」コーディネートをする。
・思考を深める問い返しや揺さぶり誤答提示、一般化、多面化

まとめる

4．学習のまとめをする

本時の学習で学んだことを，児童の言葉でまとめる。

「わかった！」

視点③振り返り活動の工夫

たしかめる

5．適用問題を解く

本時のねらいに応じた適用問題の設定
（内容・量の吟味・評価問題の活用）

「できた！」

・定着を確かめる
適用問題

ふりかえる

6．学習の振り返りをする

＊振り返りカードの活用

「みんなで考えたらできたね。」
「次の時間は・・・」

ふりかえり（低）
○わかったこと　きづいたこと
◎できるようになったこと
◎つぎにやってみたいこと
❀友だちからまなんだこと
❀まえとくらべて

ふりかえり（高）
○分かったこと気づいたこと
◎できるようになったこと
◎次にやってみたいこと
❀友だちの考えから学んだこと
❀自分が成長したこと

・思考過程を価値付け振り返らせる。
・学びの喜びを実感させるように振り返らせる。

＊ノートの書き方

◎マス目を使って，見やすく書く。つめすぎない。スカスカノート
◎直線は定規を使ってひく。
◎ノートの左はしに，縦線を引く。
（日付，ページ番号，問題番号，自分の考えやまとめなどのマーク）

4/5 (め)　〈　本時のめあて　〉

P6 1

(自)　自分の考え（自力解決）

(友)　友達の考え

P7②　適用題

(ふ)　振り返り

学年の実態に合わせて，ふき出しを使ってポイントを付け加えるなど工夫する。

振り返りカードの視点をもとに書く。
段階的に，自分の変容を書けるようにす

３．研究計画

日程	研究会	教科・学年・組・授業者・単元名・内容など
４月	教師と児童によるめざす授業像の共有	・授業集会による「めざす授業」イメージの共有 ・「授業チャレンジによる」学びの土台の整備と共通システムの構築・推進
５月	第１回　研究全体会	・石川県・小松市のめざす教育について ・今年度の研究の取組の確認 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」について ・指導案様式の提案
６月	【計画訪問】	全体研究授業（算数）　指導案検討会
	公開授業	算数：２年２組（田嶌）
	全体研究授業・授業整理会	算数：２年１組（下出）
７月	全体研究授業・授業整理会	総合：６年１組・２組（稲垣・木下）
	低・中・高学年部会	１学期の取り組み　ふりかえり
８月	７日【小中合同研修会】	５年指導案検討会 前教科調査官　渋谷一典先生・筒井 CCO・吉本指導主事
	２８日【小中合同研修会】	４年指導案検討会 前教科調査官　渋谷一典先生・筒井 CCO・吉本指導主事
	夏季休業中	・１学期の成果と課題と２学期に向けての取り組み提案，共通理解 ・指導案検討会

９月	教師と児童によるめざす授業像の共有	・授業集会による「めざす授業」イメージの共有 ・「授業チャレンジによる」学びの土台の整備と共通システムの構築・推進
	全体研究授業・授業整理会	総合：３年１組・２組（西山・山口）
１０月	授業交流週間	
	１８日【小中合同研修会】	４年・５年指導案検討会 前教科調査官　渋谷一典先生・筒井 CCO・吉本指導主事
	全体研究授業	算数：１年１組（宮口）
１１月	２２日【市指定研究発表会】	前教科調査官　渋谷一典先生・筒井 CCO・吉本指導主事 総合：４年１組（松本） 総合：５年１組・２組（吉田・呉座）
１２月	低・中・高学年部会	今年度の成果と課題
１月	研究全体会	２学期の成果と課題，３学期の取組について
２月	研究全体会	今年度の研究についてのまとめ
３月	研究全体会	来年度の研究について